

2017 年度ボランティア活動報告

『学習支援ボランティア』

尚絅学院大学の学生が取り組むボランティアには、様々な活動があります。その中の1つ、小・中学校で行う学習支援ボランティアについてご紹介します。小・中学校の教室で、授業補助を行ったり、運動会や学芸会などの学校行事の補助を行う学習支援ボランティア。今回は、母校で活動している学生のレポートを紹介します！

母校である小学校に出向き、「放課後先生」という名称での学習支援のボランティアをしています。最初は夏休みに行われた有償での学習支援ボランティア活動に訪れたことがきっかけでした。その後、小学校の先生から、「無償でのボランティア活動にはなるが続けてもらえないか」と言う打診をいただきました。

小学生と楽しく関わりながら行う活動に楽しさを覚えたことや、学習塾でのアルバイトをしている経験を、ボランティアという社会貢献として活かしていけると思い、続けていくことに決めました。もちろん、学校に行く時間が少なくなってくる3年生という時期が重なったこともあり、時間を無駄にしないためという理由もあります。

活動内容は、活動日に指定されたクラスへ出向き、問題を解く児童にヒントを与え、一緒に考えたりしています。自分自身が前に立って授業をしていくという形ではなく、あくまで担任の先生の補助として、声かけをし、問題を解くように促していくことがほとんどです。

何度も学校を訪れ、放課後先生として信頼されていくと、休み時間は“人気者”になります。休み時間になると、子どもたちとのたくさんの会話から、近頃の小学生事情を教わることもあります。中には一生懸命追いかけてくる子もいて、休み時間中走り回ることもしばしば。運動不足の僕は息を切らしながら、次の日の筋肉痛と戦うこともあります。しかしこれも、童心に戻るいい機会です。

小学生のイキイキした様子を見ていると、たくさんの元気をもらえます。大学生活では出会うことの出来ない、小学生の頃の自分を思い出すことも出来ますし、教えることを通して、自らの成長を感じることも出来ます。なにより、常に刺激を受け活動していくので、本当に楽しいです。さらに、解き方を教えた子が1人で正解する姿を見た時の喜びは格別です。

皆さんもぜひぜひ、学習支援ボランティアを経験してみてください！

(人間心理学科 4年 K.T.)

